

アフターコロナの経済成長に向けて、力強く歩みを進める年に



会頭 塚本 能交

株式会社ワコールホールディングス
代表取締役会長

謹んで新年のごあいさつを申し上げます。今年のご干支は、「壬寅^{みずのえとら}」です。暦では大地に陽気をはらみ、春の草木が芽吹き始める年でもあります。今年こそ、コロナ禍を克服し、一日も早い社会経済活動の正常化に向けて、力強く歩みを進める年にしたいものです。

さて、昨年末から各国で感染が拡大したオミクロン株は、日本国内でも感染者が急増し、私たちはコロナと共存せざるを得ないことを改めて痛感しております。社会経済活動を維持するためには、感染防止が何よりも重要であります。そのことを今一度認識し、一人一人が手洗いや消毒、マスクの着用などの基本的な対策を徹底し、感染防止と経済活動の両立を図っていく必要があります。

未だ先行きが不透明な中、厳しい経営環境が続きますが、このような時だからこそ、企業は経営を見直し、環境の変化に耐えうる体質への改善やサプライチェーンの構築、そして顧客ニーズに合わせた商品・サービスの開発などに取り組み、自社を磨き上げることが必要であります。その結果、コロナが収束した暁には、付加価値を高める取り組みが企業の新たな魅力となつて、より多くのお客様から支持されることにつながるのではないのでしょうか。より磨きをかけ、新たな価値を発信する企業が増えれば、京都ブランドの向上にもつながり、地方創生の時代に京都の明るい未来を切り拓く大きな原動力になると思います。

今年、京都商工会議所は創立140周

年を迎えます。歴史を振り返れば、数々の困難を京都企業はしなやかな対応力で克服してきました。本所では、このコロナ禍を会員の皆様とともに乗り越えるため、資金繰りや雇用維持など企業の事業継続のための支援を最優先に、円滑な事業承継に向けた支援を拡充するほか、若手起業家の育成や、社会の変化を捉えた新たなビジネスに挑戦する企業の後押しにも力を入れてまいります。さらには、文化庁の京都移転を通じた地方創生の推進や、「大阪・関西万博」を契機とした新たな魅力づくりに取り組むなど、伝統や文化といった京都が積み重ねてきた良き基盤の上に、新たな価値観に対応する京都経済・京都企業を「二」から創造していきたいと思っております。

時代の激流を京都力で乗り越えよう



副会長
堀場 厚
株式会社堀場製作所
代表取締役会長兼
グループCEO

謹んで新春のお慶びを申し上げます。
一昨年より私たちの行動は長らく制限されてきましたが、用心深くも様々なイベントが復活し始め、人々の動きも活発になってきました。
皆様におかれましては、も事業の本格的な活性化に向けて励んでおられることと拝察します。
我々を取り巻く環境は解決すべき新しい課題で溢れています。我が国において特に深刻化しているのはエネルギーの未来ではないでしょうか。企業経営においてもSDGsの視点が社会から求められるなど、企業価値の判断基準も大きく変わろうとする激変の時代と言えます。幸い、京都には歴史と文化に根差した先進のスピリットを持ち、広く世界に目を向ける人財が集まっています。この京都力を活かして知恵を発揮し、この激流を乗り越えましょう。
本年も京都商工会議所を中心に京都に貢献してまいりたいと考えます。
皆様のご健勝とご活躍を祈念いたします。

コロナ禍からの再生と持続可能な社会の実現を目指して



副会長
村田 恒夫
株式会社村田製作所
代表取締役会長

謹んで新春のお慶びを申し上げます。
昨年はワクチン接種によってコロナ終息への期待が高まった時期もありましたが、コロナ禍の状況に「喜」憂した1年であったように思います。さらに、コロナ禍に伴う企業活動の制約に加え、世界的な半導体不足などのサプライチェーンの混乱も発生し、企業経営の観点では一層厳しさが増した1年でありました。また、昨秋のCOP26によって気候変動対応への課題意識が一層高まり、今年からは脱炭素社会実現に向けた取り組みが業種にかかわらず問われることになりそうですし、気候変動対応以外のSDGsの達成に向けた取り組みも加速しそうです。
これらの重要課題の解決には、会員の皆様の連携をさらに強化することが必要となります。京都の「ひと」「まち」「企業」がそれぞれの知恵を生かし連携することによって、京都経済・産業の発展が実感できる1年となることを願い、新年のご挨拶といたします。

変化の中で本質を捉え、自らの強みを生かす



副会長
山口 悟郎
京セラ株式会社
代表取締役会長

謹んで新春のお慶びを申し上げます。
新型コロナウイルスの世界的な感染拡大はいまだ予断を許さない状況ですが、ワクチンの普及や治療薬の開発が進み、経済活動の正常化が期待されています。京都においても、産業界によって収益回復が鮮明になっており、コロナ以前の水準を上回る企業も少なくありません。
この大きな転換期にあつて、私たちは従来の常識や固定観念から脱却し、あらゆる仕組みや制度、ルールをゼロベースで考え直す貴重な機会を与えられています。同時に、そうした中でも変わることのない、働くことの本質や、時代が変わっても継承していくべき価値を改めて認識することにもなりました。
京都はその長い歴史の中で、新しい時代に適応するだけでなく、自らの強みを生かし、地域の独自性を発揮することで繁栄を遂げてきました。本年もそうした京都の凛とした姿を内外に示すことができる1年となるよう、微力ながら副会長として尽力してまいりますので、皆様のご理解とご協力をお願い申し上げます。

虎子を得る二年に



副会長
土井 伸宏
株式会社京都銀行
代表取締役頭取

謹んで新春のお慶びを申し上げます。
いまなお厳しい状況が続いていますが、コロナ禍での迎春も2度目となれば、完全終息への期待は一旦横に置き、SDGsや脱炭素など新たな時代への事業変革に取り掛かるべき1年といえます。
今年は寅年ですが、「虎穴に入らずんば虎子を得ず」という故事成語もありますように、コロナ禍での慎重経営・縮小経営から舵を切る意識改革なくしては、虎子を得るほどの大成功を収めることはできません。
虎穴の状況を確認し（情報分析）、虎子を得る方法を考え（戦略策定）、万一の場合に身を守る準備を万全にし（リスクへの備え）、そのうえで怯むことなく突入の決断をすることで（経営判断）、最終的に虎子を得る一年にしたいと思っております。
こうした思いのもと副会長として尽力してまいりますので、引き続き皆様方のご理解とご協力をよろしくお願い申し上げます。

今年メタ（メタバース）元年



副会長
齋藤 茂
株式会社トーセ
代表取締役会長兼
CEO

謹んで新春のお慶びを申し上げます。
昨年のビッグニュースは、FacebookがMetaに社名を変更し、スタートからメタバース構築に約1兆1000億円を投資、1万人の雇用を行うという事でした。Meta（超越）とUniverse（宇宙）を組み合わせた造語であるメタバースは、デジタル仮想空間を意味しています。その中でeコマースや広告、ゲームだけでなく、観光、文化、不動産、趣味、医療、会議などの要素を自分の分身であるアバターを通じて体験することができます。
例えば、アバターが買った品物は実際に手元に届きます。旅行や文化体験やメタバース上で得た知識も実際に皆様のもものとなります。リアルとメタバース上の両方でビジネスが出来るのでチャンスが膨らみます。
本年がメタバース元年になり、皆様の新しいビジネスに繋がるような情報を発信していくことができればと思います。本年もどうぞよろしくお願いたします。

京都経済の再生に果敢に臨み、新たな未来へ踏み出そう



副会長
立石 文雄
オムロン株式会社
取締役会長

謹んで新春のお慶びを申し上げます。
昨年は、新型コロナウイルスの猛威が収まることなく、私達の社会や経済を脅かし続けた1年でした。当分の間、コロナと向き合う生活をしなければならぬ中、受け身ではなく、人が本来持つ強さを認識し、発揮していくことが大事なのではないかと思えます。
弊社は、「よりよい社会」づくりを企業理念に掲げ、それを支える価値観の一つとして、物事は身内の「損得」ではなく、社会の「善悪」で判断することを繰り返し伝えていきます。このような価値観を持って人が本来持つ強さを発揮することが、難局を乗り越える大きな力となると信じています。
今こそ、我々は人が本来持つ強さを発揮し、自ら何が出来るかを自分自身で考え行動することで、京都経済の再生に果敢に臨み、新たな未来へ踏み出しましょう。本年もどうぞよろしくお願いたします。

レジリエンスを発揮して持続可能な発展を



副会長
田中 誠二
株式会社キャリアエール
インターナショナル
代表取締役社長

謹んで新春のお慶びを申し上げます。
昨年は、コロナのワクチン接種が進み、社会経済活動が徐々に戻り始めてきました。今年は、感染症対策に万全を期する中で、地域経済を支える京都観光の本格的な再開を目指したいと思っております。そのためには、京都観光の持続可能性をさらに高め、激変する環境に適応するしなやかな強さ、レジリエンスを発揮して、観光の力で文化の継承や地域コミュニティの発展、そして自然・環境の保全等、コロナ禍を見据えつつ社会課題の解決とSDGsの達成に貢献する取り組みが必要です。
また、Society5.0時代に向け、デジタル技術と観光資源との掛け合わせによる観光需要や体験価値の創出等、DXの推進を通じた観光サービスのイノベーションが求められます。京都は1200年を超える悠久の歴史の中で、互いに知恵を出し合い様々な環境の変化に柔軟に対応する力を都市全体で身につけてきました。こうした力を集結させることで、京都のさらなる発展につなげていきたいと思っております。
本年も地域経済の活性化、中小企業・小規模事業者の発展・振興に尽力してまいります。

